

2024 年度(令和 6 年度)

事業報告書

(第 14 事業年度)

自 2024 年 1 月 1 日

至 2024 年 12 月 31 日



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目 次

I. 法人の概況	1
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定等に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
II. 組織運営の概況	3
1. 会議等の開催状況	
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
III. 事業概要	5
公 1: 企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及	
1-1. 提言・提案活動	8
1-2. 調査研究事業	8
1-3. 認定・顕彰事業	10
1-4. 情報発信・提供	13
1-5. 普及促進	19
(1) セミナー・フィールド視察等	
(2) 国際交流	
(3) 地域メセナ交流・推進	
1-6. コーディネート、協力	22
公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業	
2-1. 活動状況	26
2-2. 助成事業の利用状況	26
IV. 決算報告	31

I. 法人の概況

1. 公益社団法人設立年月日

2011 年 1 月 6 日

※ 1990 年 4 月 20 日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い 2011 年 1 月 5 日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度 内閣府からは特段の指摘事項、勧告、または命令はなかった。

5. 会員の状況

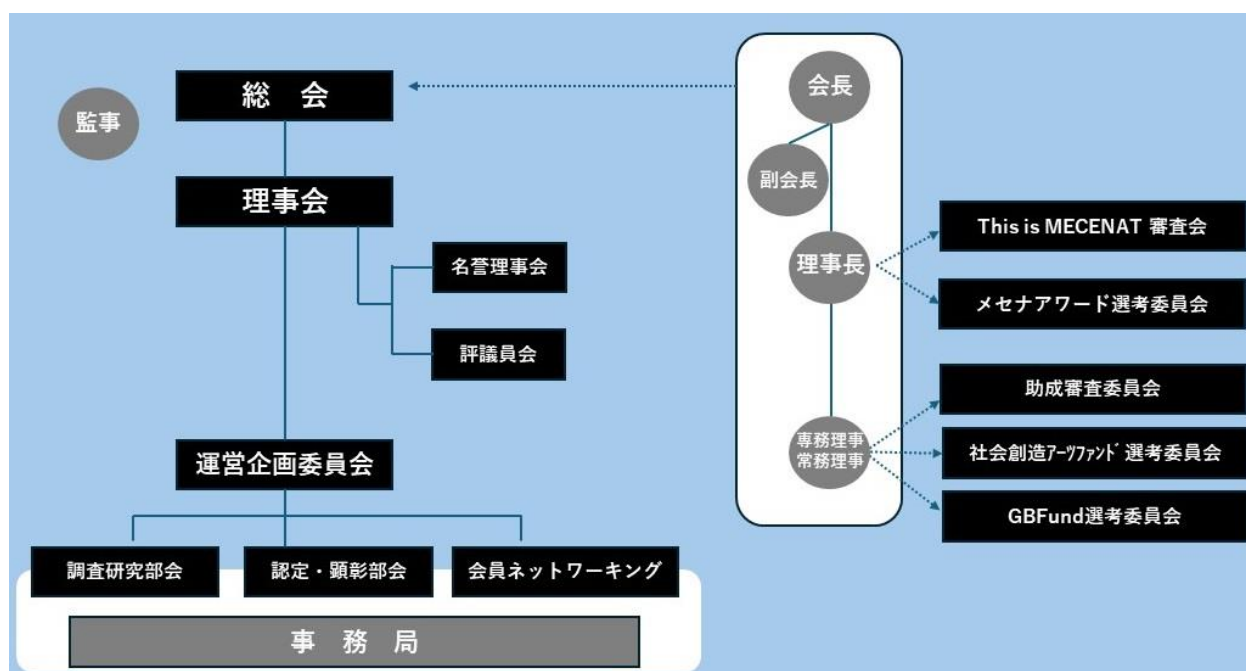
正会員:104 社・団体 準会員:23 社・団体／個人会員 26 名 (2024 年 12 月 31 日現在)

6. 役員等

2024 年 12 月 31 日現在

会 長	二宮雅也	SOMPO ホールディングス株式会社 特別顧問
副会長	中村史郎	株式会社朝日新聞社 代表取締役会長
理事長	夏坂真澄	花王株式会社 前顧問
常務理事	澤田澄子	公益社団法人企業メセナ協議会
理 事	新井一輝	大日本印刷株式会社 ICC 本部 本部長
	石川智之	TOPPAN ホールディングス株式会社 執行役員広報本部長
	井上 武	トヨタ自動車株式会社 渉外・広報本部 社会貢献推進部 部長
	梶浦砂織	株式会社資生堂 アート&ヘリテージマネジメント部 部長
	小路明善	アサヒグループホールディングス株式会社 取締役会長
	古賀信行	野村ホールディングス株式会社 名誉顧問
	萩原なつ子	独立行政法人国立女性教育会館 理事長
	原島 博	東京大学 名誉教授
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	吉本光宏	合同会社 文化コモンズ研究所 代表
監 事	岩田武司	よこはま第一法律事務所 弁護士
	戎井真理	有限会社戎井会計コンサルティング 代表取締役 米国公認会計士
顧 問	尾崎元規	花王株式会社 前取締役会会長
	高嶋達佳	株式会社電通 相談役
名誉理事	稲垣精二	第一生命ホールディングス株式会社 取締役会長
	遠藤信博	日本電気株式会社 特別顧問
	鹿島紳一郎	日本生命保険相互会社 執行役員
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役会長
	早川 茂	トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長
	平田保雄	株式会社日本経済新聞社 参与
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 名誉顧問
評議員	奥村洋治	株式会社フジタ 代表取締役社長
	坂井辰史	株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
	田中稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
	戸田裕一	株式会社博報堂DYホールディングス 代表取締役会長
	磨 秀晴	TOPPAN ホールディングス株式会社 代表取締役社長 CEO

Ⅱ．組織運営の概況



1. 会議等の開催状況

【定時社員総会】

- ・ 3月5日：2023年度(自2023年1月1日至2023年12月31日)事業・決算報告承認の件/新理事・監事選任の件

【通常理事会】

- ・ 2月15日：2023年度(令和5年度)事業・決算報告書(案)の件/次期理事選任案を第13回定時社員総会に上程する件/定時社員総会の招集の件/新会員承認の件/代表理事・執行理事の職務の執行状況について/理事 辞任の件について/監事 辞任の件について/会員動向/GBFund 令和6年能登半島地震 ご支援について/今後の予定
- ・ 12月11日：2025年度事業計画及び収支予算(案)の件/資産取得資金積立の件/新会員承認の件/「役員賠償責任保険」更新の件/代表理事・業務執行理事の職務の執行状況について/会員動向について/事業報告について/今後の予定

【臨時理事会】

- ・ 2月20日：次期監事選任案を第13回定時社員総会に上程する件
- ・ 3月5日：代表理事・執行理事選定の件/理事長及び会長、副会長、常務理事等選定の件
- ・ 4月3日：名誉理事選任承認の件/新会員承認の件
- ・ 8月5日：新会員承認の件/今後の方向性の基本的な考え(基本メッセージ変更について)/メセナアワード賞名について/今後の予定

【運営企画委員会】

- ・ 2月6日:新任委員 紹介・挨拶/2023年度事業報告(案)/GBFund 能登半島地震へのご支援について
- ・ 7月30日:新任委員 紹介・挨拶/2024年1月～7月活動報告/フィールド視察 実施報告「瀬戸内国際芸術祭」の舞台を体感するガイド付特別ツアー
- ・ 11月28日:新任委員 紹介・挨拶/2025年度事業計画(案)/2024年8月～11月活動報告/キヤノン株式会社様の取組紹介/会員ネットワーキング勉強会、メセナセミナー案内

2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

(◎:部会長／グループリーダー、○:サブリーダー 敬称略 ＊部会開催時)

【調査研究部会】 (2回:1/15、11/19)

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査・分析し、メセナを担う実務担当者に情報を提供するとともに広く社会に紹介。メセナに関する研究の提案、方向性を検討する。

◎天野真一(キヤノン)、金井圭/原奈未(SOMPO ホールディングス)、安井克行/村山秀樹(朝日新聞社)

【認定・顕彰部会】 (4回:1/24、7/12、7/19、12/24)

メセナに取り組む企業・企業財団等を励まし、社会からの関心を高めることを目的として、百社百様のメセナを認定する「This is MECENAT」について議論し、顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。

◎吉田祐子(電通コーポレートワン)、大森真美子/松村真由美(JTB)、前田佳世(第一生命ホールディングス)、砂屋敷真衣(富士フイルムホールディングス)、日向ひとみ(大日本印刷)

【会員ネットワーキンググループ】 (1回:6/27)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎岡部三知代(竹中工務店)、安井克行(朝日新聞社)、村山秀樹(朝日新聞社)、緒方宏大(TOPPAN ホールディングス)、薩川浩章(ベネッセホールディングス)、花形照美(リクルートホールディングス)、鈴木久美子(リソー教育)

Ⅲ．事業概要

企業メセナの意義、芸術文化振興のプラットフォームとしての方向性を再検討 ～ 芸術文化の振興を通じて心豊かな社会へ ～

2024 年は、元日の能登半島地震という大きな災害から始まった年であった。1 月 11 日には、「令和6 年能登半島地震」を”芸術文化による災害復興支援ファンド「GBfund」”の対象災害と認定し、ファンドへの寄付金の受入を開始した。また、寄付金の受入とほぼ同時に、被災された方々を応援する目的で行われる芸術文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動の支援を始めることができ、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の拡大などの過去の災害での支援経験を活かした、迅速な対応ができた。

8 月には臨時理事会を開催し、企業メセナの意義が広く認知されるためにはどうすべきかについて改めて議論した。「芸術文化とは何か」「企業メセナとは何か」「協議会は何に取り組んでいるのか」を丁寧に言語化し、10 月には「芸術文化の振興を通じて心豊かな社会へ」を新たなメッセージとして発信した。

また、その理事会では、優れたメセナ活動を表彰する「メセナアワード」の発信力の強化についても検討を実施した。法人パンフレットなども改版し、メセナ活動の更なる活性化を図るとともに、芸術文化と企業、行政、NPO など社会の様々なセクターを結ぶプラットフォームとしての役割を発揮すべく、今後も各事業に取り組んでいくことを再認識した。

■「GBFund」における「令和6年能登半島地震」への対応

助成事業では、元日に発災した「令和 6 年能登半島地震」に対応すべく、“芸術文化による災害復興支援ファンド「GBFund」”において、対象災害認定及び、寄付金受入の開始を 1 月中に実施した。

会員企業などを中心に支援を呼びかけ、年間の受取寄付金は寄付先指定寄付を含めて約 1,479 万円となった。GBFund への寄付金をもとに、2025 年には助成活動を募集し、被災者、被災地を応援する目的で行われる芸術文化活動や、被災地の文化資源・文化的景観を再生していく活動の支援を実施する。

寄付金の受入開始と同時に、自ら寄付金を集める活動の認定をする旨を発表し、ファンドに寄付金が集まるまでの緊急処置として、活動の募集も開始した。

■メセナアワードの発信力の強化

2023 年より引き続き検討してきたメセナアワードの賞名について、8 月の理事会で改めて検討した。企業のメセナ活動が、純粋な芸術文化支援をはじめ、社会課題の解決に向けた活動であることを明示するためには、どのように表現すべきかを議論し、成果を表現しつつ、活動ごとの独自性やメセナ活動の多様性を重視した“評価ポイント”を明示することで発信力の強化を図った。

■芸術文化振興に関する交流の場の創出、ネットワークづくりの促進

コロナ禍では難しかった“交流の場”を積極的に創出することに注力した。2月には「“瀬戸内国際芸術祭”の舞台を体感する、ガイド付特別ツアー」を2日間の行程で実施した。参加者は行動を共にし、直島、豊島、男木島の様々な場所で現地の方とも交流し、意見をかわすなど、交流を深めることができた。8月には会員ネットワーキンググループ主催の新入会員ファーストミーティングを実施した。例年、会員ネットワーキンググループメンバーが新入会員を迎える形式で実施してきたが、2024年より、各部会メンバーや運営企画委員なども加わり、新入会員と交流を図った。コロナ禍以降、2023年まではオンラインでの開催だったため、久しぶりに会場に集まることができ、意見交換や企画展の見学、懇親会など充実した交流の場となった。11月に実施した「メセナアワード 2024 贈呈式」では、贈呈式終了後にレセプションを実施し、広く会員企業等に参加を呼びかけ、受賞各社や会員企業、関係者の交流の場となるよう努めた。また、メセナ活動にかかわる情報交換・研鑽の場として開催する会員ネットワーク勉強会を12月に実施した。記念すべき10回目として、2024年11月にオープンしたばかりの「TODA BUILDING」を視察し、エントランスロビーなどの共用スペースに展示されるパブリックアートやアートスペース「APK ROOM」などを見学しながら、アートによるまちのエコシステムの構築を目指す「ART POWER KYOBASHI」の事業について、独自に企画・運営する話を伺い、活発な質疑応答により互いに交流を深めることができた。

■全国各地の企業メセナの掘り起こしおよび発信の強化

調査研究事業では、1991年から毎年行っている企業のメセナ活動実態調査において、また、認定顕彰事業では、認定制度(This is MECENAT)において、各事業間で情報連携しながら、全国各地で行われているメセナ活動の更なる掘り起こしに努めた。メセナ活動実態調査では、より回答しやすい工夫を行い、企業527社、財団200団体(対前年比:企業9社増、財団8団体増)から回答を得た。This is MECENATでは、177件(昨年175件)の活動を認定し、そのうち42件が新規活動の認定となった。

広報では、各事業と連携し、協議会全体としての最適な発信を心掛けた。プレスリリースでは地方紙向けに活動地域に合わせた内容のものを作成するほか、業界紙ごとにPRするなどの対応により掲載数の増加を図った。また、会員企業のメセナ活動とThis is MECENATで認定された活動を紹介しているアート&カルチャー(企業メセナのイベントカレンダー)において、認定顕彰事業との連携強化を図り、積極的な掲載呼びかけを行い、発信の強化に努めた。また、2024年は、メセナライターによる「企業メセナ訪問記」において合計11件(昨年4件)のインタビュー記事を掲載し、全国各地で実施されている企業のメセナ活動の発信の強化に注力した。

【2024 年度事業等実施状況】

月	主な事業・活動	理事会・部会等
1 月	助成相談日 (1/22)	調査研究部会① (1/15) 認定顕彰部会① (1/24)
2 月	フィールド視察 (2/9-10 @直島・豊島・男木島) 助成相談日 (2/28)	第1回運営企画委員会 @駐健保会館 (2/6) 第 27 回通常理事会 @SOLA CITY (2/15) 第 47 回臨時理事会 (2/20)
3 月	★TIM(This is MECENAT)2024 募集開始 (3/13-5/20) 助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会 (3/13) 助成相談日 (3/25) ★Mecenat Report 2023 発行 (3/26)	第 13 回定時社員総会&第 48 回臨時理事会 @駐健保会館 (3/5)
4 月	メセナアソシエイト第 10 期レポート公開 (5/28) メセナアソシエイト第 11 期募集開始 (4/15-5/13) メセナライター第 10 期募集開始 (4/15-5/13) 助成相談日 (4/23)	第 49 回臨時理事会 (4/3)
5 月	★TIM(This is MECENAT)／メセナアワード応募〆切 (-5/31) 助成相談日 (5/20)	
6 月	全国メセナネットワーク 2023 年度総会 (6/7) TIM(This is MECENAT) 審査会 (6/13) 助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会 (6/19) 助成相談日 (6/24)	会員ネットワーク幹事ミーティング (6/27)
7 月	メセナ活動実態調査アンケート開始 (7/1) ★ TIM(This is MECENAT) 認定活動発表 (7/5) ★調査報告会 (7/23) 助成相談日開催 (7/26)	認定顕彰部会② (7/12) 認定顕彰部会③ (7/19) 第 2 回運営企画委員会 @駐健保会館 (7/30)
8 月	新入会員 1st ミーティング @竹中工務店/Gallery A4 (8/1) 助成相談日 (8/20)	第 50 回臨時理事会 @駐健保会館 (8/5)
9 月	調査アンケート〆切 (9/19) ★メセナアワード選考会 (9/5)、受賞活動決定 助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会 (9/6) 助成相談日 (9/20)	
10 月	★メセナアワード受賞活動発表 (10/24) 助成相談日 (10/28)	
11 月	「メセナアワード 2024」発行 (11/26) 助成相談日 (11/27) ★メセナアワード 2024 贈呈式 (11/26)	調査研究部会② (11/19) 第 3 回運営企画委員会 @駐健保会館 (11/28)
12 月	会員ネットワーク勉強会 @TODA BUILDING (12/13) 助成認定制度&社会創造アーツファンド選考・審査委員会 (12/16) 助成相談日 (12/19)	第 28 回通常理事会 @駐健保会館 (12/11) 認定顕彰部会④ (12/24)

★はプレスリリースを配信

公1:企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

1-1. 提言・提案活動

■行政、自治体など公的機関の文化政策活動への参画

- 静岡県文化審議委員会の委員として文化振興基本計画に参画
- 船橋市文化振興推進協議会の委員として、文化振興施策の評価、提言などを行い総合的な推進に参画
- 横浜市広報企画審議会に委員として任命され受嘱
- 国民文化祭実行委員会に委員として任命され受嘱
- 東京芸術祭実行委員会に委員として任命され受嘱
- 独立行政法人日本芸術文化振興会に団体専門委員会の専門委員として任命され受嘱
- 沖縄県における文化芸術の振興にかかる多様な財源確保可能性等検討委員会に委員として任命され受嘱

1-2. 調査研究事業

2024 年度の調査研究事業では、国内のメセナに関する調査、メセナ事例の研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)、外部機関からの調査受託・相談対応の3点に重点を置いて業務を推進した。

■国内のメセナに関する調査を実施

- 日本の企業・企業財団を対象としている「メセナ活動実態調査」ではアンケートを中心にデータを収集し、本年度のトピックスとしてはSNSを活用した情報発信を通じて共感の輪を広げている現状を明らかにするなど、メセナ活動の実態把握に努めた。調査終盤にはメールや電話などでの回答の呼びかけを行うなどさらなる回答率の向上を図った結果、2024 年度調査では、企業 527 社、企業財団 200 団体から回答を得ることができた(対前年度比:企業 9 社増、財団 8 団体増)。
- 『2023 年度メセナ活動実態調査報告書 Mecenat Report 2023』を3月26日に発行し、事例紹介を増やして報告書の充実を図った。さらに、プレスリリースを配信し、おもに企業や官公庁より問い合わせをいただいた。また、調査結果を様々な分野で活用してもらえるよう企業や官公庁だけでなく、国内のアート関係者の方々へも送付し、協議会から講師を派遣して実施した大学講義にて教材としても活用された。
- 2023 年度のメセナ活動実態調査の結果報告と内容の理解促進を目的に7月23日に報告会を開催した。前半は、2023 年度のメセナ活動実態調査の結果報告を行い、「～人を育てる・つなぐメセナ活動とは～」をテーマに、クマ財団 野村氏、東京ソワール 齋藤氏、田辺三菱製薬 岡村氏より各社・団体の取り組みをご紹介いただいた。最後はクリエイティブディレクターの中島信也氏をモデレーターにむかえ、事例紹介ご登壇者様によるディスカッションを行い、メセナ活動に関する課題と今後の展望について議論を行った。合わせて、オンライン配信を実施した。
- 2024 年度の調査研究部会は第1回を1月15日、第2回を11月19日に実施した。第1回では、昨年度実態調査の実態調査の集計結果を分析した。また第2回では、2024 年度実態調査の集計

結果を分析し、各企業のメセナ活動の現状をより実態に則して把握できるよう検討を行った。

「SDGs とメセナ」vol.11 「2023 年度メセナ活動実態調査」報告会

～人を育てる・つなぐメセナ活動とは～

- 実施日 2024 年 7 月 23 日(火) 14:00～16:00
- 会 場 大手町フィナンシャルシティ カンファレンスセンター ホール・オンライン配信
(〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-9-7 サウスタワー3F)
- 登壇者 ※敬称略
天野真一 [企業メセナ協議会 調査研究部会長/キャノン(株) サステナビリティ推進本部 社会文化担当主幹]
野村善文 [(公財)クマ財団 事務局長]
齋藤由美 [(株)東京ソワール 人事総務部 CSR 担当]
岡村美香 [田辺三菱製薬(株) PR 部 グループコミュニケーショングループ]
中島信也 [CM演出家・クリエイティブディレクター/武蔵野美術大学 客員教授]
- 参加申込 会 場:26 名
オンライン:61 名

※委託:独立行政法人日本芸術文化振興会委託事業「令和6年度文化芸術活動の動向把握に向けた基礎資料収集事業」



■メセナ事例の研究(メセナアソシエイト)

- 2014 年度より導入した「メセナアソシエイト」は、外部の若手研究者が各自の専門性を活かしながら関心あるテーマを設け、企業メセナについて研究を行うものである。オンラインも活用しながら事務局とミーティングで議論を深め、自らのテーマを探り、企業や企業財団への取材を行い、メセナの事例研究を行っている。
- 第10期(委嘱期間:2023年4月～2024年3月)メセナアソシエイト(2名)は、音楽祭実行委員会事務局、自治体、有識者へ取材を行い、完成したレポートを5月に協議会ウェブサイトに掲載した。

第10期メセナアソシエイト

氏 名	タイトル	取材企業・施設
浅野洋介	音楽祭が地域にもたらしたもの ～いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭の事例 を中心に～	(公財)石川県音楽文化振興事業団 いしかわ・金沢風と緑の楽都音楽 祭実行委員会事務局 石川県
宮島菜々子	ウィーンにおける音楽活動の今 —現代音楽祭 “WIEN MODERN 36” を例に—	WIEN MODERN 36 事務局(芸術監督)

- 第 11 期(委嘱期間:2024 年 6 月～2025 年 3 月)は、選考を経て 2 名を採用したが、1 名が途中辞退となり、最終的に 1 名となった。
- テーマは、「企業メセナと外部団体の協働による社会課題解決と社会包摂(仮)」である。定期的に事務局とミーティングを行い、事例研究および分析を深める。

■メセナ事例の研究(協議会アソシエイト)

- メセナアソシエイトに加え、2020 年度から若手研究者の育成とともに最新のメセナの動向を多角的に捉えた情報を提供することを目的とした協議会アソシエイトをスタートさせた。協議会が設定したテーマに基づき、調査・研究を行ってもらいホームページなどで公開することにより、日本および世界におけるメセナの潮流を理解し、日本におけるメセナ活動活性化の一助とする。2024 年は完成したレポートを 5 月に協議会ウェブサイトに掲載した。

氏 名	タイトル
三上真理子	シリーズ:各国メセナ活動推進団体の「今」 Vol. 2 ドイツ Kulturkreis der deutschen Wirtschaft im BDI e.V.

1-3. 認定・顕彰事業

「This is MECENAT」

■昨年並みの認定件数を維持、新規・継続ともに登録が定着し、10 年間で 1.6 倍に増加

- 2024 年度のメセナ認定制度「This is MECENAT」(以下「TIM」)では、177 件、119 社・団体が認定となった(2023 年度:175 件、116 社・団体)。継続認定が 135 件、94 社・団体となり、会員 8 割、非会員の 6 割以上が昨年に続けて登録している。
- 毎年着実に新規活動が増え、継続登録も定着してきており、2014 年の制度開始と比較して認定件数は 1.6 倍に伸び、登録件数は延べ 1,678 件となった。また、10 年間継続認定の企業・団体は 18 社・団体にのぼる。

■事業間の情報活用による掘り起こしと積極的な働きかけにより、初認定の地域へつなげる

- 継続して他事業の情報活用による掘り起こし・担当者への積極的な呼びかけを実施(調査研究事業:実態調査回答企業、広報事業:クリッピング記事掲載企業、ライブラリー:企業メセナの過去資料など)。全国の企業・芸術文化団体はじめ県庁、市役所、商工会議所、経済同友会、また全国のアーツカウンスルなどに応募・推薦を働きかけた。
- 首都圏はもとより、地域における TIM 認知度向上に努め、エリア別では北海道、山梨、岐阜、京都、島根、福岡などで活動する企業・団体、また初めて岩手県から認定登録があった。今後も SDGs 未来都市など地方創生に積極的に取り組む地域を対象に、メセナ活動が社会課題の解決に向けた企業活動の一つである点をアピールし、TIM の登録促進につなげる。

■認定活動の現場レポートの公開など、多様な発信媒体を充実させ、広報力を高める

- 募集開始のプレスリリースは、外部配信サイト(PR TIMES)に 23 件掲載された。認定発表のプレスリリースは、PR TIMES のほか地方紙向けに 23 種作成し個別に FAX 配信したところ、88 件記事が掲載

された(2023年:96件)。また、認定企業からも個別にプレスリリースを配信いただいたことで、より波及効果が高まった。

- 認定企業・団体には、協議会サイト「アート&カルチャー」の利用を積極的に案内し、広報発信のサポートに努め、337件を掲載した(2023:265件)。また、2024年度は9社・団体をメセナライターが取材し、企業メセナの現場レポート「企業メセナ訪問記」としてウェブに公開、広報力を強化した。協議会メルマガ・公式SNSも含め、多様な広報媒体をより充実させていく。

「メセナアワード」

■「メセナアワード 2024」を選考、地域文化の理解促進と博物館の新たな可能性を広げる取り組みなどが受賞

- 「メセナアワード 2024」は、「This is MECENAT 2023」の認定活動175件を対象としており、5月末の締切りまでに38件の応募があった。認定・顕彰部会での検討会により推薦された活動を含め、最終的には全60件を選考委員に提案した。また、事前に選考委員からの推薦が1件挙がった。
- 対象案件については9月に選考会を実施し、活動地域や規模、継続・発展性、独創性など幅広い視点で検討いただき、創造的な社会づくりに貢献する企業メセナとして大賞1件、優秀賞5件を選出した。また、優秀賞に関しては活動の社会貢献度を明示するため、賞名に代わり、特に評価の対象となった点について選考委員に考案いただいた。
- 歴史的建築物や文化財の維持保全とともに、リニューアルを通じた展示内容の充実と発信力強化により、地域文化の理解と博物館の新たな可能性を広げている活動をはじめ、地域の芸術文化振興と裾野の拡大につなげる美術展、日本美術の歴史を築く壮大な国際共同調査プロジェクト、世界の子どもたちとサステナブルな環境を考える絵画コンテスト、多様な若手クリエイターへ奨学金と創作・交流機会の支援、60年以上にわたり、子どもの豊かな心を育んでいる舞台芸術活動が評価された。

■贈呈式にて華やかな祝祭の場を演出、レセプションでは協議会関係者の交流を促進

- 贈呈式を11月26日にスパイラルホールにて開催。当日は選考経過・受賞活動の報告、受賞企業担当者による活動紹介や、選考評などが行われ、式典後にはレセプションを開催した。出席者は一般74名、プレス13名で、受賞各社・団体、選考委員、協議会役員をはじめ、運営企画委員、新入会員や地方会員など協議会関係者が広く参加し、相互に交流を深めた。
- 大賞のカトーレック株式会社からは、「快適で安全で効率的な社会に私たちは暮らしているが、今という時代を知るために過去を参照する・参照される、それが四国村ミュージアムの存在意義であり、これからも今の時代を映す鏡であり続けたい」とスピーチをいただいた。選考委員からは、「非常に厳しい経済環境の中で競争する企業、あるいはその関係団体が、ある種のプライドを持ってメセナ活動を続けている。そうした『企業の品格』というものを、日本は絶対に失ってはいけない」などの話をいただいた。
- 出席者からは、「受賞を糧に、心新たに身を引き締め、微力ながら、公益法人ならではの事業、公益法人だからこそ変わらずに長く続けられる事業に、これまで同様携わっていきたい」と喜びの声があった。

■プレスリリース、パンフレット制作、YouTube 配信など、受賞活動の広報発信

- 10月24日、11月7日にプレスリリースを配信(10月24日は文化庁同時配信)し、主要メディアをはじめ業界紙、専門誌などに取材いただいた。受賞活動発表から贈呈式まで含めメセナアワード関連記事数は115件(2025年1月17日現在)となり、朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞をはじめ、地方紙では四国新聞、大分合同新聞、その他建設業界や物流業界、保険業界などの業界紙に掲載された。
- 贈呈式開催にあわせて制作したパンフレットでは、受賞活動の紹介、大賞受賞のトップインタビュー、選考評、来年度のアワード対象となる「This is MECENAT 2024」認定活動などを掲載した。当日出席者へ配布したほか、協議会関係者約1,644名へ郵送した。ウェブサイトでは、式典での受賞各社のスピーチや選考評などを開催レポートとして発信したほか、アーカイブ動画も掲載した。
- 贈呈式の様子はYouTubeでライブ配信し、首都圏はじめ地方企業や文化関係者などに幅広く贈呈式が認知される機会となった。ライブ配信の最大同時視聴者数は28人、視聴回数は470回(2024年12月31日現在)だった。



「メセナアワード 2024」贈呈式



担当者による受賞活動紹介

【「メセナアワード 2024」受賞活動および受賞企業・団体】

メセナ大賞		カトーレック株式会社 四国村ミュージアムのリニューアル
優秀賞	ー地域密着で、美術の裾野を 広げる希望の場ー	大分県信用組合 けんしん創立 70 周年記念 第 32 回けんしん美術展
	ー絵画を通して世界の子どもの 環境意識を高めるー	花王株式会社 花王国際こども環境絵画コンテスト
	ー日本の芸術を伝承するボストン 美術館との協働ー	公益財団法人鹿島美術財団 ボストン美術館 日本美術総合調査・図録・派遣研究者への オーラルアーカイブ
	ー次世代アーティストに自由な 資金と交流の場を提供ー	公益財団法人クマ財団 奨学金や助成金、ギャラリー運営を通じた若手クリエイターの 育英支援事業
	ー子どもと舞台芸術との出会い の場をつくり続けるー	公益財団法人ニッセイ文化振興財団／日本生命保険相互会社 ニッセイ名作シリーズ

【This is MECENAT 2024／メセナアワード 2024 審査委員】

萩原なつ子	((独)国立女性教育会館理事長／(認特)日本 NPO センター理事) ※委員長
新井鷗子	(横浜みなとみらいホール館長／東京藝術大学客員教授)
佐倉 統	(東京大学大学院情報学環教授／理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー)
仲町啓子	(実践女子大学名誉教授／秋田県立近代美術館特任館長)
松尾卓哉	((株)17 クリエイティブディレクター／CM プランナー／コピーライター)
山口 周	(独立研究者、著作家、パブリックスピーカー)
夏坂真澄	(企業メセナ協議会理事長)

* 以上五十音順、敬称略

1-4. 情報発信・提供

■広報活動

(1)プレスリリース

各事業の年間計画に基づき、配信サービスを利用し、各事業と連携をしながら配信先の絞り込みをするなど丁寧な配信に注力した。

【プレスリリースによる情報発信:9 件】

No.	配信日	リリースタイトル
1	1/24	令和 6 年能登半島地震 芸術・文化による災害復興支援ファンド「GBFund」始動 被災地の文化再生、芸術文化活動の継続など、芸術文化を通じて被災地を応援する寄付を募集
2	3/4	3/13 より募集スタート「This is MECENAT 2024」企業メセナ協議会が全国のメセナ活動を認定 ―継続的な芸術文化支援から社会課題への取り組みまで、多様に広がる活動を認定・発信
3	3/26	～2023 年度メセナ活動実態調査結果～「人を活かすこと」を重視する傾向が強まる
4	6/18	「SDGs とメセナ」vol.11 「2023 年度メセナ活動実態調査」報告会 ～人を育てる・つなぐメセナ活動とは～
5	7/5	メセナ活動認定制度《This is MECENAT 2024》企業による芸術文化支援活動 177 件を認定
6	10/24	「メセナアワード 2024」受賞 6 活動決定 メセナ大賞にカトーレック(株)「四国村ミウゼアムのリニューアル」
7	11/7	「メセナアワード 2024」贈呈式開催 継続と革新により創造的な社会を築く 6 社・団体を表彰
8	12/6	メセナセミナー開催 「多様な連携の姿から探る、企業メセナの可能性」
9	12/12	「The Okura Tokyo Cultural Fund」第 7 回助成活動決定 ―珠洲の薪窯によるものづくりを応援。幾度もの災害により半壊・全壊した薪窯の復興に向けて

【事業関連記事のメディア掲出数】

年	協議会全体	メセナアワード	TIM	調査研究	助成	国際	その他
2019	4	126	47	5	1	0	23
2020	30	100	74	61	70	0	7
2021	2	132	68	58	0	0	6
2022	25	110	84	40	11	24	0
2023	2	113	119	54	0	28	343
2024	0	123	118	30	30	0	252

(紙面、ウェブ掲載含む)

※2020 年「協議会全体」30 件のうち 28 件が「ネット TAM 芸術文化応援プロジェクト」

※2020 年「助成」は GBFund でコロナを災害認定、助成の実施によりプレスリリース配信したため

※2022 年「協議会全体」は 24 件が 30 周年記念出版書籍に関する記事

※2022 年 国際セミナーのプレスリリース配信を始めた

※2023 年「その他」の 342 件は福原名誉会長逝去関連

※2024 年「その他」の 222 件は福地名誉理事逝去関連

【主な掲出記事】

掲載日	媒 体	内 容	関連事業
1/25	時事ドットコム (時事通信社)	令和 6 年能登半島地震「芸術・文化による災害復興支援 ファンド[GBFund]」始動	助成
3/26	読売新聞オンライン	2023 年度メセナ活動実態調査結果発表	調査研究
7/27 10/25 11/27	四国新聞	・企業協議会のメセナ2024 四国村ミウゼウム選出 「暮 らし、伝統 後世に」評価 ・四国村ミウゼウム 企業メセナ大賞に輝く 新装で博物 館の新たな可能性 ・企業メセナ大賞にカトーレック 時代映す鏡でありたい 加藤社長、贈呈式で抱負	TIM アワード
7/22	金融経済新聞	企業メセナ協議会 芸術文化を支える 119 社・177 件を認 定	TIM
10/25	日本経済新聞	四国村ミウゼアムの刷新 メセナアワード 2024 で大賞	アワード
11/27	朝日新聞	メセナ大賞にカトーレック	アワード
11/7	毎日新聞	「四国村ミウゼウム」リニューアル 「新たな可能性広げた」 「メセナアワード 2024」最高賞受賞	アワード
12/1	新美術新聞	「メセナアワード 2024」 受賞活動決まる	アワード
11/28	建設通信新聞	メセナアワード 2024 鹿島美術財団らを表彰	アワード

(2)ウェブサイト運営

会員企業のメセナ活動および This is MECENAT 当年度認定活動を掲載するイベントカレンダーである「アート&カルチャー」の掲載数増加のための取り組み強化を引き続き実施し、前年より掲載記事数は15%ほど増え、毎年増加傾向を継続させている。TIM の認定活動は年によって活動団体の変動はあるが、当コンテンツの認識が高まり、利用定着につながっている。担当者の変更に伴い、都度当コンテンツ利用についての説明は必要のため、迅速な対応ができるよう総務と連携を図っている。

ページビューは前年比で約 4 割増加し、毎年順調に増えており、当コンテンツによる情報発信の取り組みの効果が表れている。

【ホームページへの年間アクセス数】

年	ページビュー (閲覧数)	セッション数 (訪問回数)	ユーザー数 (訪問者数)	アート&カルチャー ページビュー
2021	105,220	41,667	31,874	19,432
2022	97,524	40,290	29,927	25,484
2023	109,775	42,759	30,309	49,215
2024	116,645	42,628	30,001	69,612

※2023 年 10 月より GA4 における集計
※外部サイトの「TIM」と「かるふぁん」を除く

【利用 SNS の動向】

(1)Facebook

	投稿数	いいね！数	フォロワー数	リーチ数
2020	243	2,077	2,077	10,967
2021	147	2,106	2,106	10,853
2022	302	2,152	2,246	11,794
2023	427	2,187	2,239	19,967
2024	489	2,181	2,239	18,928

(2)X

	投稿数	フォロワー数	インプレッション数
2020	257	1,789	310,662
2021	141	1,814	169,331
2022	332	1,869	258,014
2023	422	1,919	280,685
2024	497	2,019	271,882

(3)Instagram ※運用は 2020 年開始、アート&カルチャーとの連動は 2024 年開始

	投稿数	フォロワー数	リーチ数
2020	87	132	15,036
2021	25	213	7,512
2022	33	327	9,421
2023	20	431	3,718
2024	313	502	16,868

【アート&カルチャー掲載数】

年	記事数		団体数	
	全体	TIM 認定活動	会員	非会員
2021	125	81	26	2
2022	267	170	36	8
2023	395	276	69	23
2024	460	349	71	26

(3)メールマガジン

協議会のイベントやニュースの紹介および「アート&カルチャー」掲載の会員活動を中心に、月 1 回（月初）に定期配信を行った。そのほか新入会員紹介や会員からの掲載依頼の対応、事業と連携した主催イベントや募集の周知など、適宜個別の不定期配信も行った。メルマガ配信数は会員、一般（協議会関係者・利用者）合わせて約 3,100 件となり、引き続き実施している配信数増加への取り組み強化により 2023 年から配信数は約 160 件増加した。また、1 月に立ち上がった GBFund「芸術・文化による災害復興支援ファンド」による令和 6 年能登半島地震への支援において、寄付金などを始めとするファンドの状況報告を兼ねた「GBFund 通信」を定期メルマガに毎月掲載した。

(4)メセナライター制度

第 9 期は 5 名に委嘱し、委嘱終了する 3 月までに 3 件取材し 4 本の記事を公開した。第 10 期は 4 月 15 日～5 月 13 日で公募し、5,6 月に選考を行い、5 名を採用し、第 9 期から継続する 2 名とあわせて 7 名に委嘱した。継続委嘱のライターには、新規採用が決定するまでの 4 月～8 月の期間内で取材を実施し、記事を公開。メインである「企業メセナ訪問記」は記事公開 7 本、協議会主催のセミナー・イベント開催レポートは 2 本の記事を公開することができた。例年に比べ委嘱人数が多かったため、調整などに苦労したが、7 名それぞれの個性により、多くのメセナ活動を多角的に紹介することができた。企業メセナ訪問記では会員のメセナ活動をはじめ、メセナアワード受賞活動のその後の活動の発信や非会員を含む This is MECENAT の認定活動の紹介など、多様なメセナ活動のあり様の発信だけでなく、取材に赴くことによりリアルなコミュニケーションをすることができ、協議会のネットワークの拡充にも寄与した。

また、コーディネート事業であるトヨタ自動車株式会社との協働で運営するアートマネジメントの総合情報サイト「ネット TAM」と連携。制作した企業メセナ訪問記の記事をネット TAM のコンテンツ「アートと

企業」で転載し、読者層であるアート関係者へリーチすることでより多くの層に企業によるメセナ活動を発信することができた

第9期(2023年4月～2024年3月) 委嘱5名(新規3名、継続2名)

第10期(2024年4月1日～2025年3月10日)委嘱7名(新規5名、継続2名)

【企業メセナ訪問記:11件】

公開	タイトル	ライター
2/13	株式会社メニコン「企業経営にこそ文化が必要不可欠な理由」	清水康介
3/11	中村ブレイス株式会社 「人と町の両方に寄り添い、支える。義肢装具メーカー中村ブレイスの古民家再生事業」	瀬戸義章
3/19	株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所 「アンデルセンのメルヘン大賞をつづじて、創業者の想いを全社にしみこませていく。」	瀬戸義章
3/25	カトーレック株式会社 「時間の“積み重ね”があって、今があることを知る。 我々が無くしてしまった何かを取り戻す旅へ『四国村ミュージアム』」	平木理平
7/24	株式会社リクルートホールディングス 「『この世界に、バグを。』を実現するアートセンター」	清水康介
8/26	エイベックス・クリエイター・エージェンシー株式会社 「アーティストの価値を高め、アートと人々の多様な接点を作り出す『MEET YOUR ART』」	平木理平
10/29	東京建物株式会社 「暮らしにアートを。東京建物 Brillia が描く、住宅とアートの幸福な関係。」	川崎 陸
11/28	積水ハウス株式会社 「『絹谷幸二 天空美術館』の社会貢献の挑戦 ―不二法門―」	半田将仁
11/29	株式会社六花亭:シアター亭、ふきのとうホール 「お菓子のとなりで文化が育つ。北のおやつ屋が教えてくれた『豊かさ』について」	福井さら
12/9	日本毛織株式会社 「ニッケ鎮守の杜で育む、作り手・使い手・伝え手の交流の場、『工房からの風』」	辻 陽一郎
12/23	株式会社アイワード 「人を生かし、地域を活かす印刷 ―『季刊アイワード』がつなぐ北の未来」	福井さら

【その他レポート掲出数:2 件】

公開	タイトル	ライター
2/26	「SDGs とメセナ」vol.10 国際セミナー「これからの企業メセナを考える」	瀬戸義章
9/2	「SDGs とメセナ」vol.11 「2023 年度メセナ活動実態調査」報告会 ～人を育てる・つなぐメセナ活動とは～[開催報告レポート]	辻 陽一郎

■ 出版、ライブラリー

メセナ情報の提供とライブラリー運営、協議会出版物の電子データ化

- 既刊発行物の販売を実施
 - ・『企業メセナへのアプローチガイド』(2020 年 4 月発行): 7 冊
 - ・『サステナブル経営と企業メセナの役割』(2021 年 12 月発行): 7 冊
- 協議会事務所内のライブラリーでは、企業メセナ、社会貢献、CSR 活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。2024 年度の利用件数は 5 件だった。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:00(要電話予約)
開架資料	・ 和書・報告書: 1,627 冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧) ・ 洋書: 563 冊(14 カ国の文化政策、アートマネジメント関連) ・ 企業・企業財団の資料: 約 960 企業・団体分 ・ 新聞・雑誌掲載記事(1989 年 12 月～2024 年 12 月) ・ 定期刊行物: 行政、芸術団体、研究機関、NPO、他
閉架資料	・ 映像・音声資料: 265 点(主催セミナー: 1998-2001 年) ・ メセナアワード贈呈式: 1991 年～2011 年
年間利用者数	5 名(会員 1 名、一般: 4 名)

1-5. 普及促進

(1) セミナー・フィールド視察

■アートの力で地域再生を果たした事例を学び、持続可能な社会の実現に向けて、芸術文化の役割や企業メセナの可能性について考えるフィールド視察を開催。

- 新型コロナウイルス収束後、初めてのフィールド視察を実施。会員企業と共同で、持続可能な社会に向けて芸術文化の役割や企業メセナの可能性について改めて考える独自のツアーを企画した。また、調査事業と連携してメセナ活動実態調査の報告と先進的な事例を紹介し、知見を深める内容を開催した。当日は全てオンラインでライブ配信を実施し、一定期間アーカイブとして公開したほか、後日協議会サイト上に開催レポートとして報告・発信した。
- 上記ツアーは、企業トップやメセナ担当者、大学教授、芸術文化団体の専門家など、幅広い芸術文化関係者が参加し、好評を得た。

フィールド視察 「瀬戸内国際芸術祭」の舞台を体感する、ガイド付特別ツアー

2023 年 12 月に実施したセミナーと連動して、瀬戸内国際芸術祭の舞台となった島々への 1 泊 2 日のツアーを実施した。セミナー登壇者のベネッセホールディングス・塩田基氏にご案内いただき、芸術祭の原点ともなったベネッセアートサイト直島の「家プロジェクト」「ベネッセハウス ミュージアム」「地中美術館」【直島】を見学し、アートによる地域再生の姿に触れるとともに、対話型鑑賞体験を通して課題への気づきや学びのきっかけとした。2 日目には、産廃不法投棄事件を乗り越え豊かな自然を取り戻し、豊かな自然とアートの島として知られている【豊島】、そして芸術祭をきっかけに移住者が増え、過疎高齢化の課題を乗り越えてきた【男木島】を訪問した。

※旅行企画・実施:株式会社直島文化村 ベネッセハウス ツアーデスク

※協力:株式会社ベネッセホールディングス

- 日 時: 2024 年 2 月 9 日(金)・10 日(土)
- 視察先: 直島、豊島、男木島
- 参加者: 15 名(会員 12 名、一般 3 名)



会員ネットワーキング

■新入会員をはじめ、様々な会員が参加しやすい交流の場をつくるとともに、今の企業メセナを捉えた現場視察を実施。

【新入会員ファーストミーティング】

- 会員ネットワーキンググループ幹事主催の「新入会員ファーストミーティング」では、3 年ぶりに対面で開催し、2024 年は 2 社の新会員が参加した。当日は竹中工務店に会場協力いただき、各社で取り組むメセナ活動のプレゼンテーションや協議会の活動概要等を説明した後、ギャラリーエークウッドの見学を実施した。会員ネットワーキンググループのメンバーのほか、運営企画委員やその他の部会メンバーも参加し、事務局スタッフも含めて相互に交流を深めた。

新入会員ファーストミーティング

- 日 時：2024 年 8 月 1 日(木) 15:30～17:30
- 会 場：竹中工務店 東京本店1F ワイスクエア／ギャラリーエークウッド
- 参加会員：13 名（うち新入会員以下 2 社）
松本美貴子、濱田阿礼(ポーラ・オルビスホールディングス)
佐藤すみれ、藤村隆史(モデュレックス)



【会員ネットワーク勉強会】

- 第 10 回勉強会では、11 月に新規オープンした「TODA BUILDING」の視察を実施。エントランスロビーなどの共用スペースに展示されるパブリックアートを見学しながら、アートによるまちのエコシステムの構築を目指す「ART POWER KYOBASHI」の事業について、独自に企画・運営する話をうかがった。当日は企業のメセナ担当者をはじめ、行政の文化芸術担当者などが参加し、新たな芸術文化拠点の可能性に高い関心をもち、活発な意見交換がなされた。
- 開催後はメセナライターの記事レポートを作成し、協議会サイトで発信した。

第 10 回 会員ネットワーク勉強会 TODA BUILDING 見学ツアー

- 日 時: 2024 年 12 月 13 日 (金) 15:00～17:00
- 会 場: TODA BUILDING
- スピーカー: 小林彩子、久木元 拓(戸田建設)
- 参加者: 21 名(会員 16 名、一般 5 名)



(2) 国際交流

協議会の英語版ウェブサイト、例年掲載している調査報告書発行のプレスリリースに加えて、日本企業のメセナ活動を世界へ発信すべく、以下のメセナアソシエイトの事例研究 4 本と、メセナライターのレポート 6 本を掲載した。

- The Role of Corporate Mécénat in the Promotion of Postwar Japanese Photography –From the cases of Nikon Corporation and FUJIFILM Corporation
- Support for Theater Culture by the Private Company as Seen in the History of Japanese Contemporary Drama –With a focus on the example of Osaka Gas–
- A Record of Corporate Mécénat_Mitsubishi Estate ARTIUM Gallery in Tenjin, Fukuoka
- Consideration of Music Activities Currently Performed in Vienna —Taking “WIEN MODERN 36” as an Example—
- ACOM CO., LTD.: Putting smiles on the faces of all those involved: ACOM Miru Concert Monogatari
- Toppan Printing Co., Ltd.: Printing Museum, Tokyo (1): Activities —Thinking about the future of printing through its history
- Toppan Printing Co., Ltd.: Printing Museum, Tokyo (2): Experience Report —Temporary Exhibition: MAP and PRINTING
- Sachibaru no Niwa Co., Ltd.: Pursuing business and mecenat activities through the new Sachibaru Ya-dui installation artwork produced by creating nature

・Tokyo Midtown Management Co., Ltd.: TOKYO MIDTOWN AWARD: Design and Art Competition

・Kanosei Art Project: All-TOPPAN efforts toward paving the way for the new age by making maximum use of infinite possibilities and talents

(3) 地域メセナ交流・推進

各地域の文化振興に寄与

- 全国メセナネットワーク(会員数:11 団体)の幹事として会の活性化を図るために、本年度も引き続き、6月7日にオンラインも併用して総会を開催した。厳しい社会環境の中で各団体の芸術文化振興に取り組む現状を共有し、活性化に向けた意見交換を行った。来年度も引き続き総会にて情報交換を行い、メセナ活動の活性化に向けた議論を継続することとなった。

1-6. コーディネート、協力

■ 芸術文化振興の専門機関として幅広い相談・協力に対応

- 企業メセナの専門機関として、協議会に蓄積された情報や知見を活かし、公益芸術団体など芸術文化振興に関わる幅広い相談に応じる他、具体的なメセナプログラムの開発や協力、コーディネート事業を展開。企業間および企業と他のセクターをつなぐ役割を担った。
- 出張講座
大学などの教育機関や文化関連団体・組織などの招聘に応じ、企業メセナに関する講座を実施。

出張講座(教育・普及活動)「企業メセナの歴史と最新動向」講義

- 2月21日 独立行政法人国立文化財機構 第9回ファンドレイジング勉強会
「企業による芸術文化(メセナ)活動について」 約400名
- 5月30日 昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科
「アート・マネジメントⅠ」 約30名
- 6月10日 國學院大學 (公益社団法人ポーラ伝統文化振興財団より依頼)
「文化芸術振興論」 オンライン授業 約200名
- 12月4日 公益財団法人福井県文化振興事業団 ビジネスパーソンのための文化芸術セミナー
「企業による文化芸術支援活動」 約25名



執筆

- 株式会社産労総合研究所「労務事情」
 - 6月1日号 コラム「視点」『企業メセナとは、何だろう』
 - 6月15日号 コラム「視点」『よりよい社会、よりよい企業に向けて』
- 慶應義塾大学出版会「三田評論」
 - 7月号 巻頭随筆「丘の上」『企業メセナの今』

• ネット TAM (トヨタ・アートマネジメント)

トヨタ自動車と協議会が協働して運営するアートマネジメントに関する総合サイト「ネット TAM」については、本年度も継続して事務局を担い、サイトの運営を行った。

2024年10月にネット TAM は開設 20 周年を迎え、サイトのリニューアルと記念企画事業を実施した。都度サイトの改善に取り組んできたが、近年、インターネットをめぐる技術的環境やデバイス、その周辺環境の変化によるユーザーのインターネットの利用方法の変化は著しく、人々の生活様式や社会の仕組みにまで大きな影響がおよぶようになっている。20 年の継続により増加したコンテンツの整理とともに、利用者の利便性を高めるため 10 月 1 日より段階的にサイトのリニューアルを行った。

また、記念企画として、トヨタ・アートマネジメント事業の立ち上げを担い、ネット TAM の前身であるトヨタ・アートマネジメント講座のディレクターであった東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科 教授の熊倉純子氏にご協力いただき、TAM 大座談会「アートマネジメントのはじまり・いま・これから」を企画・実施し、レポートおよびアーカイブ動画を制作公開した。東京藝術大学キュレーション教育研究センター協力により座談会を同大学の施設で公開して実施し、関心を寄せる学生たちが見学できるようにした。座談会の全体のファシリテーターを熊倉純子氏にお願いし、日本におけるアートマネジメントのはじまりを TAM 講座の立ち上げや運営を担ってきたオリジナル TAM 世代と振り返った。さらに、アートの現場の第一線で活躍する中堅世代と、これからのアートマネジメントを切り拓く若手世代の声を聞き、アートマネジメントの現在地を考察し、これから展望を見出す内容で実施した。

さらに、昨年に引き続き、リアルとオンライン開催をかけあわせた大学生・大学院生を対象に通年プログラム「TAM スタジオ 2024 連続ゼミナール～ここからはじめるアートマネジメント」を実施。昨年同様アートマネージャーの野田智子氏をファシリテーターにお迎えし、対面でコミュニケーションできる機会を増やしたプログラムに 16 名が参加し、2025 年 3 月まで実施を予定している。

トヨタ自動車	アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」の運営
主な業務内容:アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(www.nettam.jp)事務局としてサイトの管理・運営、コンテンツの企画・制作、運営事務局の定例会開催、メルマガ配信(定期配信月 1 回ほか適宜)、SNS 管理・運営、イベントの企画・制作・実施。 ● TAM スタジオ 2023 連続ゼミナール「ここからはじめるアートマネジメント」 ファシリテーター:野田智子氏(アートマネージャー/Twelve Inc.取締役) ・期間:2023 年 8 月～2024 年 3 月 2023 から継続してプログラムを実施し、2024 年はオンラインミーティング 2 回のほかトークセッション(第 2 回)2 月 22 日開催 /場所:トヨタ自動車株式会社 東京本社 ゲスト:堀切春水さん[NPO 法人 BEPPU PROJECT プロジェクト マネージャー] ・参加費:4,000 円 ・対象:アートマネジメントに興味のある専門学校生、大学生、大学院生 ※専攻問わず ・参加者数:20 名 ・トークセッションの開催レポート(メセナライター取材執筆)および参加者レポートを「スタジオメイトの声」として記事制作・公開 ● TAM スタジオ 2024 連続ゼミナール「ここからはじめるアートマネジメント」 ファシリテーター:野田智子氏(アートマネージャー/Twelve Inc.取締役) ・期間:2024 年 8 月～2025 年 3 月(実施中) オンラインミーティング全 3 回のうち 2 回実施のほかトークセッション第 1 回(8 月 27 日)開催 /場所:トヨタ自動車株式会社 東京本社、ゲスト:林曉甫さん[NPO 法人インビジブル 理事長/マネージング・ディレクター] 第 2 回は 2025 年 2 月 14 日開催予定。アート現場視察第 1 回:PARADISE AIR(千葉県松戸市)(9 月 10 日)、第 2 回:アートサイト名古屋城 2024(12 月 14 日)を開催。 ・参加費:4,000 円 ・対象:アートマネジメントに興味のある専門学校生、大学生、大学院生 ※専攻問わず ・参加者数:16 名 ・トークセッションの開催レポート(メセナライター取材執筆)および開催後に参加者レポートを「参加メンバーの声」として記事制作・公開 ● アクセス数(年間) 訪問数:約 94 万、ユーザー数:約 43 万 ページビュー:約 363.1 万 ● 主な更新内容:コンテンツ連載(月 1～3 件更新) 【Voices～みんなの声座】・・・さまざまな分野や立場で芸術と向き合う人の声を集める投稿形式のミニコラム(4 月で終了) 【リレーコラム】・・・アートマネジメントの現場で活躍中の方々が 1 つのテーマに沿ってリレー形式でつなぐエッセイ ・「アートとかかわり続けるために、なぜ起業したか?」全 8 回(2024 年 1 月～2024 年 9 月) 【ネット TAM ブログ】・・・災害、社会に向き合うアート活動の現場レポート ・「アートマネジメントのインターン現場レポート 世田谷パブリックシアター 2024」 世田谷パブリックシアターの協力のもと、インターン生のレポートを紹介。全 4 回 ・「アートと企業」アートの現場レポート!企業編 TOA(株)、(株)メニコン、中村ブレイス(株)、カトーレック(株)、(株)アンデルセン・パン生活文化研究所、(株)リクルートホールディングス、エイベックス・クリエイター・エージェンシー(株)、東京建物(株)、積水ハウス(株) ・内覧会レポート ● サイトのリニューアル ・トップページ、記事ページのレイアウト変更 ・ネット TAM メンバーズおよびキャリアバンク投稿の機能強化を実施	

・コンテンツ整理:Voices、リンク集、用語集、文献集、資料集はアーカイブへ移動

【その他協力依頼対応】

■委員・役員

依 頼 元	内 容(期間・開催日)
文化庁	「国民文化祭実行委員会」委員 (2024 年 8 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)
静岡県	「静岡県文化政策審議会」委員 (2024 年 10 月 30 日～2026 年 10 月 29 日)
横浜市	令和 5 年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日) 令和 6 年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)
船橋市	「船橋市文化振興推進協議会」委員 (2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)
特定非営利活動法人 日本 NPO センター	評議員(2023 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)
認定 NPO 法人 トリトン・アーツ・ネットワーク	「第 8 期評価委員会」委員(2023 年～2025 年)
東京芸術祭実行委員会	東京芸術祭実行委員(2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)
独立行政法人 日本芸術文化振興会	「芸術文化振興基金運営委員会」運営委員 (2024 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日)
国立大学法人 琉球大学	「沖縄県における文化芸術の振興にかかる多様な財源確保可能性等検討委員会」委員(2024 年 10 月 31 日～2025 年 3 月 15 日)

■後援 ラベル提供

依 頼 元	内 容(期間・開催日)
特定非営利活動法人 世界劇場会議名古屋	世界劇場会議国際フォーラム 2024 in 長久手 (2024 年 2 月 28～29 日)

■その他

内 容	依頼元
相談対応	中央大学、TOPPAN ホールディングスなど

公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

2-1. 活動状況

■GBFund「芸術・文化による災害復興支援ファンド」における災害支援対応

1 月 1 日に発災した令和 6 年能登半島地震を支援すべき災害として、1 月 11 日に会長・理事長の承認のもと同災害の災害認定を行った。その後、理事・監事・会員企業をはじめ、協議会に関係する芸術文化関連の有識者・団体、17 名・15 団体の方々にご賛同いただくかたちで寄付の募集をした。なお、寄付金の再分配による助成金交付が実施できるまでの緊急対応として、助成認定制度を同ファンドで運用し、自ら寄付を集める活動の募集と審査・選考を実施し、資金調達の支援を行った。

■助成事業の体系整備

より多くの多様な支援が行えるよう、活動者にわかりやすく利用しやすい制度とするため、2023 年に制度運用について再検討を行い、体系の整理を実施し、2024 年は第 1 回よりその運用を開始した。それにより助成認定制度は対象とする活動の規模を事業費総額 3,000 万円以下から、事業費総額 1,000 万円以下に改定し、社会創造アーツファンドは手数料を寄付金の 5%から 7%に引き上げたが、懸念点であった常連の利用者離れはほぼなく、問題なく移行をすることができた。

■助成認定制度の利用促進

活動申請数が前年の 2023 年に比べると助成認定制度と社会創造アーツファンド合わせて約 2 割減、毎月の助成相談日利用者数は約 4 割減となっており、2023 年のコロナ禍からの復調傾向から減少に転じている状況について今後注視していきたい。一方で、本制度を再度利用する新規利用者が、2023 年においては 2.5 割減であったが 2024 年では 2.5 割増となり、今後の制度利用の定着に期待が寄せられる。

また、制度の理解促進のための紹介ツールの充実および社会創造アーツファンドにおける目的別ファンド設置推進に向けた改善については内容の検討を実施し、次年度にて説明資料の作成やウェブサイトのアップデートを実行していく。

2-2. 助成事業の利用状況

2-2-1. 社会創造アーツファンド[ArtsFund]

1. 【申請・採択状況】

(1) 芸術・文化団体による活動の利用状況

・2024 年度各回利用実績

実施回	選考日	申請数	採択数
第 1 回	2024 年 3 月 13 日	6 件	4 件
第 2 回	2024 年 6 月 19 日	17 件	17 件

第3回	2024年9月6日	4件	4件
第4回	2024年12月16日	4件	4件
合計		31件	29件

・年度別利用状況の推移

実施年度	申請数	採択数
2018年度	23件	19件
2019年度	23件	20件
2020年度	18件	16件
2021年度	29件	22件
2022年度	28件	20件
2023年度	39件	36件
2024年度	31件	29件

(2)目的別ファンドの継続運用と寄付者の要望に沿った寄付コーディネートを実施。

●The Okura Tokyo Cultural Fund（2017年3月設立・2019年10月名称変更）

実施回	選考日	助成総額	採択数
第1回	2017年3月16日	2,774,000円	3件
第2回	2018年3月6日	1,000,000円	2件
第3回	2018年12月17日	900,000円	2件
第4回	2020年3月19日	1,000,000円	2件
第5回	2022年9月15日	500,000円	1件
第6回	2023年9月22日	500,000円	1件
第7回	2024年9月6日	500,000円	1件

2.【寄付・助成状況】 SOMPO アート・ファンド、The Okura Tokyo Cultural Fundを含む

年 度	寄付総額	助成総額
2018年度	332,193,261円	300,837,133円
2019年度	326,212,289円	324,521,423円
2020年度	174,023,742円	168,341,792円
2021年度	206,420,000円	195,271,600円
2022年度	224,176,523円	213,429,638円
2023年度	240,024,465円	227,128,050円
2024年度	326,435,239円	314,321,940円

※SOMPOアート・ファンドは2021年度で終了

2-2-2. 「芸術・文化による災害復興支援ファンド」(GBFund)

1. 【申請・採択状況】2017 年 1 月名称変更より

実施回・年度	選考日	申請数	採択数	支援対象災害
第 1 回	2017 年 7 月 14 日	54 件	11 件	東日本大震災、熊本・大分
第 2 回	2018 年 7 月 13 日	46 件	13 件	東日本大震災、熊本・大分
2019 年	2019 年 2 月 27 日	10 件	10 件	東日本大震災、平成 30 年 7 月豪雨
2020 年	2020 年 10 月 8 日	74 件	16 件	新型コロナウイルス
2022 年	2022 年 3 月 2 日	1 件	1 件	新型コロナウイルス
2023 年	2023 年 7 月 10 日	1 件	1 件	新型コロナウイルス
2024 年	随時	5 件	5 件	令和 6 年能登半島地震

※申請数、採択数には、追加支援を含む。(2021 年は、寄付金減少などにより、採択未実施。)

※2024 年は「令和 6 年能登半島地震」への寄付金分配による助成金交付までの緊急対応として、寄付募集を目的とする活動募集および活動認定審査・選考を随時行った。

2. 【寄付・助成状況】※2011 年 3 月設立「東日本大震災による復興支援ファンド」を含む

年 度	寄付金総額	寄付金累計額	助成金総額	助成金累計額
2017 年度	4,367,060 円	159,085,370 円	4,897,390 円	145,430,577 円
2018 年度	1,445,824 円	160,531,194 円	3,080,000 円	148,510,577 円
2019 年度	1,532,627 円	162,063,821 円	1,303,127 円	149,813,704 円
2020 年度	3,587,455 円	165,651,276 円	3,444,376 円	153,258,080 円
2021 年度	302, 345 円	165,953,621 円	0 円	153,258,080 円
2022 年度	1,207,958 円	167,161,579 円	1,070,000 円	154,328,080 円
2023 年度	26,228 円	167,187,807 円	397,216 円	154,725,296 円
2024 年度	15,789,164 円	182,976,971 円	3,671,750 円	158,397,046 円

※寄付先指定寄付金を含む

※2024 年度寄付金は、令和 6 年能登半島地震への寄付が 14,789,164 円、新型コロナウイルス感染症への寄付が 1,000,000 円

2-2-3. 助成認定制度

1. 【申請・認定状況】

実施回	審査日	申請件数	認定件数
第 1 回	2024 年 3 月 13 日	13 件	13 件
第 2 回	2024 年 6 月 19 日	22 件	19 件
第 3 回	2024 年 9 月 6 日	10 件	10 件

第4回	2024年12月16日	11件	11件
合 計		56件	53件

2. 【年度別利用状況の推移】

実施年度	申請数	認定数
2016年度	102件	81件
2017年度	72件	65件
2018年度	88件	72件
2019年度	86件	70件
2020年度	66件	52件
2021年度	49件	43件
2022年度	63件	58件
2023年度	71件	65件
2024年度	56件	53件

3. 【助成認定制度を通じた寄付件数と寄付金額】

年 度	寄付件数	寄付総額	助成総額
2016年度	337件	62,765,639円	67,485,639円
2017年度	412件	76,613,798円	77,024,613円
2018年度	471件	74,981,467円	75,820,652円
2019年度	499件	75,797,558円	73,572,558円
2020年度	289件	65,311,020円	60,146,020円
2021年度	277件	53,942,000円	57,577,000円
2022年度	310件	63,381,970円	63,946,970円
2023年度	370件	65,756,611円	66,896,611円
2024年度	387件	56,008,970円	56,938,970円

IV. 決算報告